

## 昨年12月13日 総務文教委員会でのやりとり（議事録より）

### 私と担当課とのやりとり

#### <土光委員>

ちょっと淀江の関連でもうちょっとお聞きしたいのですが、今、淀江の体制って、淀江支所長がいて、それから地域生活課、これは支所長と課長が兼務でやっていますね。それから、もう一つまちづくり推進室、そういう体制だと思うのですが、この**改正によって何が変わる**かという、多分この**淀江振興本部**というか、淀江振興課というのは、**まちづくり推進室**に取ってかわるといことになると思うんです。まず、そうですか。

#### <八幡行政経営課長>

済みません、その説明が抜けておりました、申しわけございません。現在、今の組織との比較ということでお話しさせていたきたいと思います。土光委員さん言われましたように、現在は淀江支所長がおられて、その支所長が地域生活課、3係あるんですけれども、その課長を兼務していると。3係といいますのが、いわゆる総務係と窓口サービスの窓口サービス係と、あとはいろいろな公共事業を請け負う事業係というふうに3係ございます。そして、もう一つがまちづくり推進室というのがある、これが現行の体制なんです、現在検討しておりますのが、この**淀江振興課**といいますのは、この**まちづくり推進室**プラス現行の**地域生活課の事業係**の部分、これで淀江振興課というのをつくっていきたくて考えております。そして、現行の地域生活課につきましては、今までどおり総務係と、あとは窓口サービス係、これはそのまま残すというような形で今、検討を進めているところでございます。なお、先ほども言いましたけれども、この淀江振興本部長は支所長兼務で淀江振興課長も兼務をさせていただくと（土光 注：最終的には、淀江振興課長は兼務しない体制になった）、そういうふうな形になりますし、現在、地域生活課長は、これは淀江支所長と兼務なんですけれども、この支所長との兼務がなくなりますので、地域生活課には新たに課長をつけるという、そういう方向で検討させていただいている状況でございます。

### 私と市長とのやりとり

#### <土光委員>

今のように変わることで何が変わるんですか。こういうふうな体制になることで何が**変わるか**。権限の予算配分とか、その辺のところでの決定の過程とか、何が変わるかがよくわからないんですが。特に、市長自身が選挙のときから淀江振興本部というのは加えると言われていたので、

だから今のこのあり方で何が問題で、**どう変えようとして**いるのか、何が変わるのかがちょっとなかなかわからないので、少しそれを説明をお願いできますか。

#### <伊木市長>

当初、やっぱり淀江の振興が必要だと考えたときに、**最初**は淀江支所の**予算と権限**の問題かと思ったんですよ。だからそこをやはり強化していかなければという問題意識を当初は持っていたんですけども、実は今でも予算と権限は持ってまして、むしろ**その運用**だなと思ったところなんです。これを見ていただくと、淀江振興本部は総合政策部の中に入っています。いわゆる本庁組織の一端を担っているんですけども、これの意味するところは、**淀江の振興**についてきちっと**本庁**が、言ってみれば**総合政策部長**が責任を持つという意味で、**淀江のことは淀江でやってね**ということじゃなくて、淀江のことも含めて**本庁**できちんとその振興がなし遂げられるように**責任を持ってもらいたい**ということが一番大きな変化だと思っています。よろしいでしょうか。

#### <土光委員>

この辺は、これから協議、検討するんだと思いますが、今のお話では、要は淀江のことを、予算と権限とか云々とか考えるときに、総合政策本部、今度なるんですね、**米子市全体の中から淀江のことをきちっと位置づけて**やっていくというふうに聞いたんですけど、それ別な言い方をすると、今、市長も淀江のことは淀江でやってねみたいな、やはり**自分たちの地域のことは自分たちで考えてやっていく**という、そういう視点も非常に大切だと思うので、何か今のお話では、**それがもうそうではなくて**、米子市全体の一つの位置づけで考えていくよみたいにも聞こえるんですけど。

#### <伊木市長>

ちょっと**ニュアンスが違って**おまして、今でもやってないわけじゃないと。ただ、その**より一層フォロー**というものをしっかりしていこうということだと思っています。結果にもう少しコミットしていくといいでしょうか、**結果を出そうよという体制**にするには、淀江のことはまず淀江で考えるべきなんだろうけれども、そこで出てきた案をきちんと事業につなげ、最後まで遂行し、結果を出してもらおうようにする。そのための体制としては、今の体制よりも**本庁舎のほうからでもきちん**と淀江にかかわっていくという**姿勢**、これはまさに総合政策部の中に入れたのはそこにあるわけですけども、こういう体制でしっかりと淀江の政策をフォローしていこうということだと考えております。